

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400135		
法人名	医療法人社団東方会		
事業所名	グループホームあんじん		
所在地	千葉県香取市佐原1681		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成23年4月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『愛-愛されていない命はひとつも無い、尊重-尊ばれない命はひとつも無い。』 この運営理念の下にスタッフ一同がチームと共にケアして当たっています。 散歩、買い物、墓参り、喫茶店でのティタイムなど外出支援し、地域のイベントなどにも参加しています。 医療との連携が充実していて、ご家族も安心しておられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定員6名の家庭的な雰囲気を感じさせる「あんじん」は、老舗の醸造会社が点在する街並みの一角にあり、ホームの全室にはトイレと洗面所が備わっていて、プライバシーにも配慮した施設となっている。敷地内にはデイサービスあり、またすぐ近くには経営母体の医療機関があり、それらと相互の連携が図られていて、安心して生活できる環境が整っている。「あんじん」は家族、友人、知人の来訪を歓迎している。入居者は近隣で暮らしていた人が多く、買物や散歩は小野川縁や近くの商店街へ出かける等馴染みの人や場との絆を継続する支援をしている。「あんじん」の創始者が掲げた「愛されていない命はひとつもない、尊ばれない命はひとつもない」という理念は職員全員に引き継がれケアに活かされている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや先に行った自己評価・外部評価の結果をスタッフに読んでもらい日々の仕事に反映させる。	事業所の創始者が掲げた「愛されていない命はひとつもない、尊ばれない命はひとつもない」という理念は関係者に周知され、管理者及び職員の一言ひと言から実践に結びつけている様子が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩・町内の子供会祭りへの参加、祭礼・買物など積極的に行っている。	来訪する地域の人や商店主、学校帰りの小学生との触れ合い及び祭礼等地域の行事への参加や小野川縁での買い物や散歩等、近隣の人たちとの触れ合いが深まるよう地域に対し積極的に働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	話し合いに出たことは実施にまで至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では当ホームの現況、職員の勤務状況、研修等等報告し話し合いをしている。地域の方にも参加して貰い防火訓練など行った。	会議は家族会を兼ねていて、区長、民生委員、隣人、家族の出席を得て開催されている。会議では事業所の現況等を報告し、参加者の意見はサービス向上に活かしている。また併せて防火訓練を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年2回運営推進会議を開き、近隣のグループホームとの懇談会を設けサービス向上に取り組んでいる。連絡を取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	3ヶ月～4ヶ月に1度開催するグループホーム懇談会に市の福祉保健課の担当者も出席し、サービス提供や運営に関して意見交換を行っている。事業所ではこのような機会を利用し、市との協働関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会などに参加しミーティングの際に報告を行うなど勉強会を行いケアにつなげている。	玄関は開かれていて見守りや近隣の協力で入居者の出入りが自由となっている。職員は研修会への参加やミーティング時の教育で「どんなことがあっても拘束は行わない」という姿勢でケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止徹底のため職員の勉強会、ミーティング、研修会参加等で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどの場で職員が成年後見制度について熟知するよう努めている。現在利用者の中に一人この制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族にも十分な説明を行い不安や疑問点を尋ね理解・納得をしてもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で家族・利用者からの意見を伺い運営に反映させている。	面会時に家族から個別に要望を訊くほか、運営推進会議に併せて開催した家族会でも5家族8名の出席者から、意見や要望を訊いている。また、利用者からは日々要望や意向を聴き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、職員の意見や提案を訊く機会を設け反映させている。	日々入居者に接しその状況や実情を知っている職員の意見を十分に聞き運営に活かしている。また経営者、管理者が出席し、月に1回開催する会議でも職員の意見や提案を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングなど職員が個々に意見をのべる場を設け、前向きに仕事が出来よう支援していく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修し、管理者や職員を経験に応じ育成するための計画を立て勉強会(ミーティング)を月1回実施し職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会等で同業者と交流する機会をもち勉強会や他施設などの見学会等を実施し質の向上の取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの苦情は職員全員で把握し解決に向け努力する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係が導けるよう“聴く機会”を設け受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を見極め、対応を図っていく方向を検討し、スタッフが周知し、取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にすごしながら入居者の能力・希望に応じ喜怒哀楽を共にし、家事等や生活活動に努力して賞っている。入居者の豊富な人生経験から学ぶことも多く、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からも本人の様子をうかがったり共に喜怒哀楽を分かち合うより良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のニーズに応じ外出・散歩・買物・墓参りなどに出掛ける工夫をしている。	事業所には家族、友人、知人の来訪がある。また入居者は近隣で暮らしていた人が多いので、買物や散歩は知人や商店主が声をかけてくれる近くの商店街へ出かける等馴染みの人や場との絆を継続する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、スムーズにかかわりや、やりとりが出来るよう見守り、配慮をしている。生活の中で仲間意識を感じてもらえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人家族の希望により自宅へ戻った方があったが入居者スタッフが会いに行ったり訪問看護をしターミナルを迎えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に以前からの状況を伺い現在の暮らし方を考慮しながら本人・家族の意向に応えるよう支援している。また、職員の気づきや本人の言葉・表情の中から本人本位の視点で思いを把握している。	日々のかかわりの中、或いはアセス作成過程で把握したこと全てをその方固有の情報として計画等に落とし込み共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを利用し、チームからの情報を集めて生活歴・馴染みの暮らし方を把握する。家族にうかがったり本人の生活ぶりを職員間で予測しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌の記録を中心に個々の状態を引き継ぎながらミーティングでスタッフの共通理解を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用しチームより情報を集めミーティングにて家族の意向も踏まえながら課題とケアのアイデアと工夫を話し合う。本人と家族に介護計画説明と了承を得る。モニタリングも同様。	利用者調査によると、ケアプランに対する家族の関心・信頼度は高い。日常的な家族への働きかけがなされているものと考えられる。継続を期待する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌に個別記録を記入、当日のスタッフが必要なことを申し送って、職員は全員が目を通し確認し、情報を共有、また、意見を出し合いミーティングでの気づき・アイデアの工夫をセンター方式を活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所、別のグループホームに入所の御主人に逢う為、スタッフや家族が同行し、本人や家族のニーズに対応する支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて町内の住民に理解と協力依頼をしている。緊急時の対応として警察・消防署に即時に協力依頼できるようにしている。希望者が文化に触れられるよう支援、また、近所の保育園に招待されることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が系列医院の医師のために本人家族ともに納得して良い関係を築いている。また、適切な医療を受けられるように他医療機関との連携も良い。	主治医が系列医院の医師であることは利用者・家族にとり安心のひとつである。利用者が使用している薬の目的や副作用、用法や用量などについて理解し記録され、飲み忘れや誤薬を防ぐ日常支援にも信頼がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の一人が看護師として従事しているために、日常の健康管理や医療連携の支援も充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここ1年は入院した利用者は皆無だが過去骨折した利用者の入院の際は入院先の関係者にサマリー・TEL連絡など利用し情報交換に努めた。また、食事介護にスタッフが入院先に通った。退院時もサマリーに退院後の情報をもらった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示の下チームでの入居者の長く暮らすための支援に取り組んでいる。終末期に関しては家族とともに本人の心より添えていけるようにしている。ターミナルに向けてのケアをスタッフが丸となってできるようミーティングの場を作り、意思統一を図っている。	家族の多くは重度化に対応した家庭内での体制がとりにくく、物心両面の負担、職場や近所との関係など、きつい現実を超えなければならない。こうした重度化・終末期対応にも利用者・家族とのかわりを大切にするこの事業所独自の体制と継続が期待される。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り職員全員が熟知するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて民生委員、町内代表、隣人の方が出席するので理解と協力依頼している。緊急時の対応として警察・消防署に即時に協力依頼できるようにしている。	災害対策は外部組織に期待する一方、自前の総力を挙げた避難対策・暫定措置等がどのように取れるかでもある。災害マニュアル、誰がどのベッドを守るか、シフトいかに関わらず利用者が必ず避難できる方途と消防の指導・点検など、具体的対策が必要と考える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の書類等については所定の場所に保管し個人情報の保護を図っている。日常的にも入居者のプライバシーに配慮し、申し送り方法や声かけに気を配り、相互の信頼関係を大切にしている。	文書の保管が重要で当然の義務でもあるとの認識の基、文書以外のプライバシー(排泄や入浴の状態等)、職員同士あるいは利用者との日常会話のようなやり取りにも、細かく配慮をしているとのことである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に説明して希望を伺うようにしています。なるべく具体的に分かりやすく話をするようにしながら本人の表情や行動から気持ちを受け止めることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせた支払いを行っている。希望を言いだせない入居者にはさりげない言葉かけなどをして希望を把握するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者に応じて化粧の支援を行ったり2ヶ月に1度美容師に来てもらいヘアカットをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望や能力に応じて食事の準備から片付けまで共同で行っている。入居者と職員が同じテーブルを囲み明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。入居者と一緒に食材の買い物をしたり、近隣住民から農産物の差し入れ等により季節を感じる食事の提供を行っている。外食会を企画・実施し入居者に食の楽しみを支援している。	職員も一緒に食卓につき、楽しい食事をしている。食事時独特のざわめきが忙しさと楽しさを立ち昇らせている。ご近所からの差し入れの食材で美味しさを倍増させることもあるとのこと。職員の熱意が細かな配慮として利用者を包み込んで見える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態、好みなどを考慮し一人ひとりに応じた支援をしている。水分については一日の水分量を見ながら足りない分は好みの飲み物で摂取して頂く。糖尿病の方にも気を配る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、就寝時に口腔ケアを行う。入れ歯の方は洗剤を使用、うがいしていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行きたくなくなったらいつでも行けるよう配慮し本人の行動やパターンを把握し本人のやり方を重視して自立支援している。	職員挙げての努力で、before/afterの介護度が向上し、ついに布パンツに到達した利用者もおられるとのこと。身体機能に応じた細やかな支援が利用者の自信につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を表にて記録し把握しながら本人に意識づけたり水分野菜を多く摂取して貰っている。体操や移乗を多くして体を動かしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	脱衣場は暖かくしてあり、入浴は毎日実施している。本人の希望に応じて回数、時間帯等柔軟に対応している。本人のタイミングを見て声かけ指導している。	利用者は皆さん、すがすがしい印象である。大切にされている人の表情が印象的である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思による行動や言葉様子より横になったり、ゆっくりとソファにてくつろげるよう配慮。夜間は排泄後安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の薬の説明書を確認し内容を把握しておき、特に薬が変わったときは効果・副作用について注意してみて症状を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力・希望に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。デイサービスのレクにも参加し、外部との交流も図る。施設では猫を飼っており触れ合いが癒しになっている。季節の行事、誕生会、旅行を企画・実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に応じて散歩・買物を日々実施。外出を行う。年一回グループホームじゅんらく合同2泊3日の旅行を実施。また、家族の協力を得ながらお墓参りや家族との外食を楽しんできています。	利用者調査で家族の意思確認が不十分なのが『外出支援』です。食事や対応の優しさ、排泄の自立などは家族に解るが、外出支援に関しては『不明』と言う回答が一般的に多い。職員体制に関係する場合もあるので、歩行困難なケースでも戸外に出られるよう、支援を期待する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はバックの中に財布をもち購入する際に自分で支払う様子があれば確認しながら見守る。事前に家族より預かり本人にお知らせして払ってもらうこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に職員が本人の意向をきき、電話をかけたたり、本人に話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は花を生け干支、季節により正月飾り、クリスマスリースを飾り、壁は作品や写真、居間はソファーにてゆっくりと座れる。脱衣場は温風で温かい。台所と食堂が一体で快い音声の中で過ごせる。	リビング・トイレ・浴室など、利用者が日常使用する空間・設備は良好である。賑やかな場であり、利用者さんが大事にされている様子が伝わっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の安心していられる場所を共通理解し、利用者同士の人間関係も考慮しながら支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇のある居室があり、また、家族と相談しながらTVを設置、本人の使い勝手の良いよう配慮、支援。	大事にされながらも、集団の中での暮らしは苦手の方も居られ、一人になれるスペースも大切に支援されるよう期待する。GH以前の篤い想いで建てられたホームであり、安心して居住できる場所、地域の財・資源としてのさらなる発展に期待する。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で車いすを動かして移動している方のために通路をあけていつでも通れる。廊下、トイレ、浴室は手すりがあり利用されている。椅子に座ってできるよう配慮。		